

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機（345））
2. 日時：令和2年7月28日 13時30分～16時00分
3. 場所：原子力規制庁 8階A会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

名倉安全管理調査官※、江崎企画調査官、千明主任安全審査官、
津金主任安全審査官、服部主任安全審査官、日南川技術参与
技術基盤グループ 地震・津波研究部門
石田技術計画専門職

事業者：

中国電力株式会社 山田常務執行役員 電源事業本部 部長（電源土木）
他10名 ※

5. 要旨

- (1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号炉の設置許可基準規則等への適合性のうち、「5条 津波による損傷の防止」について、7月27日提出資料に基づき説明があった。
- (2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【防波壁の構造についての設計方針】

- グラウンドアンカーの評価方針について、グラウンドアンカーを構成する各部位の評価項目（鋼材の引張、アンカー一定着体の付着等）及びその評価方針を網羅的に説明すること。
- 2次元動的FEM解析でケーソンの頂底板間の最大変位発生時刻に着目して加速度及び荷重（地震時動土圧、動水圧等）を抽出する方針について、選定した時刻の設計用荷重と最大発生荷重を比較して、妥当性を説明すること。
- 3次元静的FEM解析によるケーソンの部材照査について、荷重平行方向の部材（側壁、隔壁等）の面内せん断に対する照査結果を説明すること。
- 鋼管杭式逆T擁壁の鋼管杭を岩盤からのせん断抵抗に期待しない設計とする方針について、杭先端をローラー結合に見直す内容が分かるよう説明すること。

- 鋼管杭式逆T擁壁の鋼管杭の役割について、設計方針の見直しを踏まえて再整理し説明すること。
- 鋼管杭式逆T擁壁の鋼管杭先端を岩盤からのせん断抵抗に期待しないモデルとする方針について、グラウンドアンカーの具体的な反映方針が明確となるよう説明すること。
- 3次元静的FEM解析によるケーソンのモデル化方針について、銅水砕スラグ又は砂をモデル化したソリッド要素とケーソン構成部位をモデル化したシェル要素との間の境界条件を説明すること。また、銅水砕スラグ又は砂の材料条件（剛性）を説明すること。
- 3次元静的FEM解析モデルの支承条件を説明すること。
- 機能要求と設計評価方針の一覧表について、グラウンドアンカーの応力状態、損傷モード及び許容限界の具体的な内容を説明すること。
- グラウンドアンカーの永久アンカー工法について、設計の考え方及び構造仕様を準拠基準（グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説）を引用する等して、具体的に説明すること。
- グラウンドアンカーについて、試験施工の内容を具体的に説明すること。
- ケーソンの中詰材について、材料種別毎の配置が明確となるよう説明すること。
- ケーソンの構成部位であるフーチングについて、構造成立性の評価結果を説明すること。
- 防波壁の長期的な維持管理方法について、今後検討していくとしている時期を明確にして説明すること。

【防波壁の構造についての構造成立性】

- 多重鋼管杭式擁壁の地盤安定性の評価について、岩盤部の評価方針及び結果も合わせて説明すること。
- 多重鋼管杭式擁壁の鋼管杭の部材照査について、耐震性の低い施設護岸等が健全であることを前提にした評価に対し、損傷することを前提にした評価を比較し、評価結果に対する考察を加えて詳細設計段階の方針を説明すること。
- 漂流物荷重の対象漂流物（排水トン数 57t 船舶及び排水トン数 30t 船舶）について、防波壁の評価対象範囲が明確となるよう説明すること。

(3) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

6. その他

関係資料：なし